
《閻鬼》パーティー 《2010、クリスマス》

天狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《閻鬼》パーティー《2010、クリスマス》

【Nコード】

N6365P

【作者名】

天狼

【あらすじ】

閻魔と鬼男のクリスマス！

(前書き)

ちょっとシリアスです？

天国か地獄か。

その分岐点である閻魔庁。そこにある閻魔の仕事机には、ささやかなクリスマスのシンボルが置かれていた。

——小さな小さなクリスマスツリー。

「あらま。あなた、自殺？自殺の子は地獄だわ。」

「そんな！嫌です！私地獄なんていきたくない！！」

クリスマスだからといって死者が減るわけでもなく、閻魔はいそいそと仕事をこなしていた。

なぜ仕事をサボるのが大好きな閻魔が、クリスマスという一大イベントの日にいそいそと仕事をこなしているのか。

——答、鬼男くんが仕事を終わらせたらクリスマスパーティーをする約束したから。

「そう言われてもねえ、決まりだからさあ……」

「生きてるのがつらかったから死んだのにつ！！」

獄卒衆が彼女を取り囲んだ。

「嫌っ！嫌です！閻魔大王、私地獄なんて！」

「でも、決まりだし……。」

「いやっ！ちよっ……いやっ助けて！！」

その言葉を最後に彼女は地獄へと消えた。
彼女を見送った閻魔の前にはまだまだたくさんの死者リストが置かれている。

「はぁ……」

しかし、今の閻魔の前には鬼男くんとクリスマスパーティーが待っている。

これが終われば……そう思うと、またやる気が復活した。

よし！やるぞお！と意気込み仕事に取りかかるうとしたとき、声をかけられた。

「珍しくやる気ですね、大王。」

「鬼男くん！」

声のした方を見れば、鬼男が立っていた。なにやら、たくさんの書類を抱えている。

「え……それ、まさか……？」

「死者追加です。」

「鬼男くんの鬼ーっ！」

「はい。僕鬼ですから。」

ドサツと書類を閻魔の前に置き、閻魔の様子をそつとうかがう。
閻魔は、どこか遠くを見ているようだった。

「大王？」

仕事を増やしたのがそんなにショックだったのだろうか。

「鬼男くん、今日はクリスマスだよね。」
「……はい。」

閻魔は書類をパラパラとめくりながら、続けた。

「今ここに名前を連ねている人達にも大切な人がいて、同時にこの人達を大切に思う人達もいたはずなんだ。」

「……そうですね。」

「こんなにたくさんの人達が大切な人と過ごす日に、大切な人を失ってるんだ。……なんだか、申し訳なくなるね。俺達は……死なないんだもの。」

「大王……。」

大王や鬼男は死なない。正しく言えば、死ぬことができない。

「死なない俺が大切な人と幸せなクリスマス過ごすのも、狡い事みたいに思えちゃってさ……。」

「そんな……。」

「こんな事言つてごめん。鬼男くんが折角パーティーしてくれるって言ってるのに、狡いとか思う自分が、俺は大嫌いだよ。」

そう言うのと閻魔は俯いた。

閻魔はもとはずごく明るい性格だ。しかし、仕事柄たまに今のようになーバスになるときがある。そんな閻魔をみて鬼男は人を天国と地獄に分けることの荷の重さを感じるのだ。

鬼男は閻魔の前の書類を全て抱えた。

「鬼男くん？」

「今日の仕事は以上です。」

「え…嘘。だって、その書類……。」

「今のあなたでは、適切な裁判ができないでしょう?」

「……ごめん。」

閻魔はまた俯いてしまった。

「大王、仕事終わりました。するんでしょう?パーティー!」

「……でも……仕事……。」

「あなたは、一体いつからそんなに真面目になったんですか。他人の不幸より先に、自分の幸福を感じてください。」

「……はい。」

「じゃあ、帰りますよ。支度してください。」

「うん。」

閻魔の返事を聞くと、鬼男は書類を片付けに奥の部屋へ向かった。

「鬼男くん!」

振り返ると、閻魔がうつすら笑っていた。

「ありがとう。」

鬼男も笑みを浮かべた。

「今日の分は、明日きっちりやっていただきますから。」

「鬼!」

「僕は鬼ですよ。」

鬼男は奥の部屋へと消えていった。

「鬼男くんはやさしいね……。」

閻魔の呟きは、誰にも届くことはなかった。

（後書き）

優しい鬼男君が好きです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6365p/>

《閻鬼》パーティー 《2010、クリスマス》

2010年12月31日03時07分発行